

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	ページ
0522	子規記念博物館管理運営事業	教育委員会事務局	子規記念博物館	2
0522	子規記念博物館企画展示事業	教育委員会事務局	子規記念博物館	3
0522	子規記念博物館資料購入事業	教育委員会事務局	子規記念博物館	4

令和8年度 松山市事務事業シート（令和7年度実績分）

部局等名	教育委員会事務局	課等名	子規記念博物館	担当G	博物館管理運営担当	連絡先	931-5566
------	----------	-----	---------	-----	-----------	-----	----------

1.事業概要【Plan】

事業名	子規記念博物館管理運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理
0522					
政策【分野】	ワクワクを全国・世界へつなぐ【都市の魅力】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	市長公約	
政策別未来像	松山ファンが増えて、集まってくる		○	○	
施策	人を引き付けるまちの魅力向上	根拠法令	松山市立子規記念博物館条例		
主な取組	「ことば」文化の発信				
目的・背景	【目的】適切な管理運営を行うことで、利用者に安全かつ快適に利用していただくとともに、より多くの人々に子規や文学の魅力に触れていただくことを目的としている。 【背景】松山市立子規記念博物館は、正岡子規の世界をとおして、より多くの人々が松山に親しみ、松山の伝統文化や文学についての認識と理解を深め、新しい文化の創造に役立てることを目的として開設された文学系の博物館である。				
対象・内容	【対象】来館者、市民ほか 【内容】・子規記念博物館の管理運営に指定管理者制度を導入し、民間業者の持つノウハウを活用して、館の活性化と利用者サービスの向上を図っている。 ・子規顕彰全国俳句大会、子規顕彰全国短歌大会等の各種大会を開催する。 ・「はがき歌」全国コンテスト、へちまコンテスト、ふるさと松山「新春子規さん俳句かるた大会」等の各種イベントを開催する。 ・各種大会やイベントなどとおして、子規の業績等を顕彰するとともに、松山の文化振興に寄与する。 ・株式会社レスパスコーポレーションへ指定管理料を支出。				

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般	款	教育費	項	社会教育費	目	子規記念博物館費
事業費／財源		令和6年度	令和7年度	令和8年度		主な経費 (千円) 【R7 決算】	指定管理料		141,000
予算 (千円)	事業費計	159,138	168,919	175,794			友の会への事務委託料		12,857
	国費・県費	0	0	0			「まつやま子規亭」開催負担金		8,337
	市債	0	0	0					
	その他	17,506	21,147	21,995					
	一般財源	141,632	147,772	153,799					
決算 (千円)	事業費計	156,782	168,451			主な取組 内容 【R7】	・施設の維持管理 ・子規顕彰全国俳句大会 ・子規顕彰全国短歌大会 ・子規顕彰松山市小中高校生俳句大会 ・「はがき歌」全国コンテスト ・SNS等を活用した情報発信		
	国費・県費	0	0						
	市債	0	0						
	その他	13,556	18,213						
	一般財源	143,226	150,238						
	(執行率)	99%	100%						
人役	正規職員	4.0	4.0	4.0		特記 事項			
	その他	2.0	2.0	2.0					
	合計	6.0	6.0	6.0					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和7年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	イベント・講座等の 実施回数		目標	26	26	26	26	予定していた回数以上のイベント等が実施 できた。	
			実績	29	29				
	現状維持	回	達成率	112%	112%				
成果指標	入館者数		目標	120,000	120,000	120,000	120,000	上半期はR6年度までの大規模改修工事の 影響もあり、利用が低調であったため。	
			実績	109,093	116,491				
	現状維持	人	達成率	91%	97%				
事業 評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調							
	理由	活動指標については、指定管理者が自主事業を実施するなど、予定以上の活動を行った。引き続き指定管理者と協力し、幅広い世 代に親しまれるようなイベントを開催していきたい。 成果指標については、目標に僅かに届かなかった。ただし、SNSでの情報発信、過去に会議室を利用した方へのDM送付、子規博オ リジナルうちわの配布などは、入館者数増に一定の効果が現れた。							
課題	体験型の展示や、子ども向けの子規博グッズなど、幅広い世代に楽し んでいただける博物館であることをPRし、更なる館の活性化を図る 必要がある。					今後の 方向性	現行のまま継続	左記の 理由	本事業の目標達成のためには、入館者増に 向けた取り組むを継続していく必要がある ため。

令和8年度 松山市事務事業シート（令和7年度実績分）

部局等名	教育委員会事務局	課等名	子規記念博物館	担当G	博物館企画展示担当	連絡先	931-5566
------	----------	-----	---------	-----	-----------	-----	----------

1.事業概要【Plan】

事業名	子規記念博物館企画展示事業		事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
0522						
政策【分野】	ワクワクを全国・世界へつなぐ【都市の魅力】		各種計画該当	総合計画(実施計画)	市長公約	
政策別未来像	松山ファンが増えて、集まってくる			○	○	
施策	人を引き付けるまちの魅力向上		根拠法令	松山市立子規記念博物館条例		
主な取組	「ことば」文化の発信					
目的・背景	【目的】正岡子規の一生を紹介する常設展を維持管理し、特別展等を企画・開催するほか、資料の調査・研究成果を機関誌「子規博だより」で発信し、子規や松山の歴史・文化の魅力を発信する。また資料修復の実施、収蔵環境の維持管理等により収蔵資料の保全を図る。 【背景】子規記念博物館は、子規資料を柱に、文学や郷土に関わる資料を収集保管するとともに調査研究を行い、その成果を博物館活動として提供する施設として開館した。開館にともない、常設展の維持管理や特別展等の開催、機関誌の発行、収蔵資料の保全・管理が必要とされたため、現在の本事業に相当する業務を開始した。					
対象・内容	【対象】来館者、市民ほか 【内容】・子規の一生を紹介する常設展の維持管理、展示替え(「子規記念博物館の名品」コーナー、特集コーナー等) ・子規や近代文学、松山の歴史文化に関連した特別企画展の開催(年1回)、及び関連テーマでの記念講演の開催 ・収蔵資料を活用した特別展の開催(年2回) ・博物館の活動や調査研究成果を発信する機関誌「子規博だより」の発行(年3回:6月、12月、3月) ・資料の修復 ・収蔵庫、書庫等の資料収蔵環境の維持管理(防虫・防カビ等) ・資料保存及び調査研究に必要な備品・図書等の購入					

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般	款	教育費	項	社会教育費	目	子規記念博物館費
事業費／財源		令和6年度	令和7年度	令和8年度		主な経費 (千円) 【R7 決算】	特別企画展の資料輸送等委託料		2,251
予算 (千円)	事業費計	10,060	13,778	13,898			特別企画展のディスプレイ等制作委託料		1,133
	国費・県費	0	0	0					
	市債	0	0	0					
	その他	0	0	0					
	一般財源	10,060	13,778	13,898		春季特別展の展示パネル等制作委託料		403	
決算 (千円)	事業費計	8,147	10,467			主な取組 内容 【R7】	・明治28年の子規の動向を振り返る第71回特別企画展「子規の『明治28年』―激動の一年―」、及び収蔵資料を活用した特別展の開催。 ・機関誌の発行や収蔵資料の修復。		
	国費・県費	0	0						
	市債	0	0						
	その他	0	0						
	一般財源	8,147	10,467						
	(執行率)	81%	76%						
人役	正規職員	3.0	3.0	3.0		特記事項			
	その他	0.0	0.0	0.0					
	合計	3.0	3.0	3.0					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和7年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	特別展・特別企画展の関連イベントの実施回数	目標	7	11	11	11	予定していた特別展・特別企画展の関連イベントを全て実施することができた。		
		実績	7	11					
	現状維持	回	達成率	100%	100%				
成果指標	特別展・特別企画展の入場者数	目標	8,000	8,000	8,000	8,000	令和6年度に引き続き目標の8割にとどまった。		
		実績	7,060	6,535					
	現状維持	人	達成率	88%	82%				
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調							
	理由	特別展・特別企画展の展示内容は、新たな視点や最新の研究成果を盛り込むことで、マンネリ化を防ぎ分かりやすい展示に努めているが、入場者数は目標の8割程度にとどまった。来場者アンケートは、約9割の方々から好評を得ているため、より展示の周知啓発に努めていく必要がある。							
課題	令和6年度に常設展2階部分を中心にリニューアルを行ったため、新設機器を適切に管理する必要がある。また、展示パネルのデザインや文字の大きさ等を随時見直し、来館者により分かりやすい展示を目指す必要がある。					今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	博物館の基幹事業である特別展・特別企画展は、来館者や研究者からも高く評価されているため。

令和8年度 松山市事務事業シート（令和7年度実績分）

部局等名	教育委員会事務局	課等名	子規記念博物館	担当G	博物館企画展示担当	連絡先	931-5566
------	----------	-----	---------	-----	-----------	-----	----------

1.事業概要【Plan】

事業名	子規記念博物館資料購入事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営
0522					
政策【分野】	ワクワクを全国・世界へつなぐ【都市の魅力】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	市長公約	
政策別未来像	松山ファンが増えて、集まってくる		—	—	
施策	人を引き付けるまちの魅力向上	根拠法令	松山市立子規記念博物館条例		
主な取組	「ことば」文化の発信				
目的・背景	【目的】博物館の責務である関連資料の収集のため、開館後も引き続き、当館の活動に不可欠であり、広く市民の理解を得ることのできる資料等を購入し、資料の保全と次世代への継承を図るとともに、常設展や特別展・特別企画展で公開し、子規記念博物館への誘客を図る。 【背景】子規記念博物館では、開館に先立つ昭和52年度から松山市教育文化施設資料購入基金を用いた資料の購入を行っている。				
対象・内容	【対象】正岡子規に関する資料、正岡子規に直接関係する者に関する資料、正岡子規を生み育てた文化的土壌に関する資料等。 【内容】・松山市の文化行政を推進する上での必要性について詳細な調査を行い、子規記念博物館での今後の調査研究・展示活動に必要な不可欠な資料を、松山市教育文化施設資料購入基金により購入する。 ・基金による購入があった年度には、購入経費を一般会計等から基金へ振り替える。				

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般	款	教育費	項	社会教育費	目	子規記念博物館費
事業費／財源		令和6年度	令和7年度	令和8年度		主な経費 (千円) 【R7 決算】	子規ほか句画「画賛」明治26年12月3日ほか全7点		25,000
予算 (千円)	事業費計	46,500	42,824	0			-		-
	国費・県費	0	0	0			-		-
	市債	0	0	0			-		-
	その他	0	0	0			-		-
	一般財源	46,500	42,824	0		-		-	
決算 (千円)	事業費計	46,500	42,824			主な取組 内容 【R7】	・子規を中心とする収集対象資料の調査、 情報収集、及び購入等。		
	国費・県費	0	0						
	市債	0	0						
	その他	0	0						
	一般財源	46,500	42,824						
	(執行率)	100%	100%						
人役	正規職員	3.0	3.0	3.0		特記 事項			
	その他	0.0	0.0	0.0					
	合計	3.0	3.0	3.0					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和7年度)	
	目指す方向性	単位							
活動 指標	収集対象資料の調査		目標	1	1	1	1	収集対象となる資料の調査を実施することができた。	
			実績	2	3				
	現状維持	件	達成率	200%	300%				
			目標						
			実績						
			達成率						
事業 評価	評価	期待した成果をあげることができた。							
	理由	正岡子規の資料を中心として、当館の収集対象となる資料の調査を行い、購入することができたため。							
課題	今後も資料購入を検討すべき案件があれば、関係する要綱・要領の規定に基づき、収集対象資料の調査及び審査を適正に行う。					今後の 方向性	現行のまま継続	左記の 理由	今後も博物館活動に必要な不可欠な資料の収集を継続する必要があるため。